

駅ナカにぎわい空間で1月3日(木)、今年で3回目を迎える「新春初笑い市」が開かれ、さまざまなイベントが行われました。

町無形民俗文化財の「金多豆蔵人形芝居」の無料公演で幕を開け、すっかりおなじみとなった健康ダンス「べえ子ちゃん」のショーや、瓜田益子さんの歌謡ショー、それから餅つき体験や振る舞い鍋といった催しを開催。餅つきには、県外からの帰省客や観光客、ストーブ列車の乗降客も参加し、津軽で迎える初春を楽しんでいました。また振る舞い鍋では、津軽の郷土料理である「けの汁」が提供され、長蛇の列ができていました。

そのほかにも、中里横笛愛好会の招福演奏では、荒馬や登山囃子、ねぶた囃子でこの日一番の盛り上がり。さらに、新幹線ビンゴ大会で今年の運試しをしたりなど、今年も駅ナカの元気を盛んにPRしていました。



東奥子ども新聞記者が取材

薄市小山田有希さん
「もったいない運動」担当者に



子ども記者による新聞を年2回発行している「東奥子ども新聞(東奥日報社発行)」の取材で、薄市小5年の山田有希さんが12月17日(月)に役場を訪れ、もったいない運動を担当する総務課越野主事を相手に記者の仕事を経験しました。

山田さんは越野主事に「なぜこのテーマにしたのか」「ゲストになぜ花嵐桜組を選んだのか」といった質問を投げかけ、本物の記者さながらにインタビュー。「町民が冬に実践できるもったいないについて考えるきっかけにな

れば」「花嵐桜組のリーダーが『健康雪かき体操』の振り付け考案者で、冬・雪を利用した健康づくりにぴったり。今年は「津軽」をテーマにしている花嵐さんが、小泊のおまつりで見せたステージに感動し、ぜひもう一度町の人に見せたいとお招きした」と答え、山田さんは一生懸命メモを取り、記事のイメージを膨らませていました。

山田さんが取材した記事は、1月31日(木)発行の東奥子ども新聞に掲載され、今回の大会の舞台裏やもったいない運動のことが、分かりやすく紹介されていました。

